

【研究の概要】

急性リンパ芽球性白血病(ALL)は、未熟な白血球が骨髄で出現、増殖し、やがて血液中に流出し全身諸臓器に浸潤していく予後不良の血液腫瘍です。成人のALLの20~30%、小児のALLの2~3%に、フィラデルフィア染色体という異常な染色体が検出されます。通常フィラデルフィア染色体は慢性骨髄性白血病(CML)で広く認められる染色体異常ですが、このように一部のALLでも認められます。CMLは当初ゆっくりとした経過(慢性期)をとり、数年の経過を経てやがてALLや急性骨髄性白血病に至りますが、一部の症例では慢性期を経ずに急性白血病を発症することが知られています。したがって、フィラデルフィア染色体陽性ALLと診断される患者さんの中には、CMLを背景とした症例が一部含まれていると考えられます。しかしながら過去にCMLと診断されたことのないフィラデルフィア染色体陽性ALLの患者さんが、CMLを背景にしているかどうかを判断するのは困難です。そこで一般的にCMLでは未熟な白血球以外に成熟した白血球(分葉核球)にも染色体異常が認められるが、ALLでは成熟した白血球には異常を認めないと考えられていることを用いて、フィラデルフィア染色体陽性ALLのうち、分葉核球にもフィラデルフィア染色体を持つものを、CMLを背景としたALLと判断することができるのではないかと考えました。この分葉核球での異常の検出は末梢血または骨髄血を用いて、BCR-ABL FISHという方法で比較的簡便に行うことができます。

当院でフィラデルフィア染色体陽性ALLと診断された患者さんにおいてBCR-ABL FISH解析を行い、分葉核球BCR-ABL FISH陽性の患者さんと陰性の患者さんの臨床的特徴や治療成績を比較することでフィラデルフィア染色体陽性ALLについてより深く理解し、得られた知見を日常臨床に役立てたいと考え本研究を計画しました。

【患者さんにお願いしたいこと】

この研究は、過去の治療内容や検査結果を用いて調査をする研究であり、これから患者さんの負担となるような行為はありませんし、この調査の対象となっていることによって、投薬や治療が行われることはありません。研究にあたり、患者さんに直接のご同意は頂かず、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施いたします。研究内容の主旨をご理解頂き、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【研究内容の開示について】

研究計画書や、研究に関する資料については、他の患者さんの個人情報保護に抵触しない限り閲覧が可能です。

【研究結果の発表と、患者さんの個人情報保護について】

研究の結果は、学会や学術雑誌に公表する予定です。患者さんの氏名、生年月日、住所などの個人を特定できる情報、プライバシーにかかわる情報は一切公開しません。また、研究の途中においても、これらの情報が漏れることのないよう細心の注意を払います。

【研究の拒否について】

上記条件に該当する患者さんの中で、本研究への協力を拒否される場合は、いつでも参加を取りやめることができます。その際、下記の連絡先までご連絡ください。拒否することで、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

【お問い合わせ等の連絡先】

血液内科 鴨田 吉正

住所：〒632-8552 奈良県天理市三島町200 天理よろづ相談所病院

電話番号：0743-63-5611（代表）